

LEVEL
3



げんさく にい み なんきち
原作：新美南吉



朗読音声のダウンロード
Audio download

よ まえ
★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む

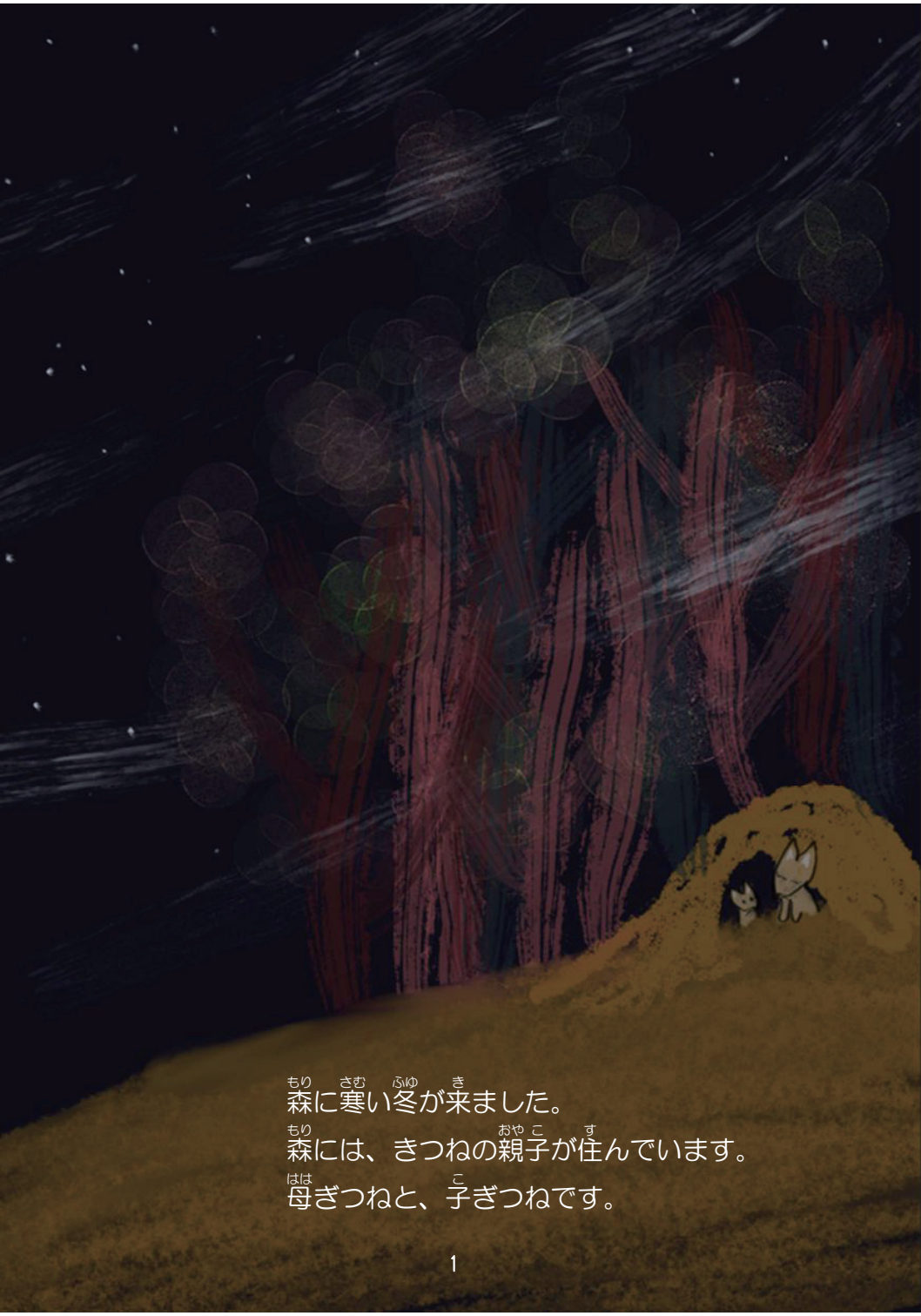


《How to do Tadoku》


Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.






もり さむ ふゆ き
森に寒い冬が来ました。
もり おや こ す
森には、きつねの親子が住んでいます。
はは こ
母ぎつねと、子ぎつねです。



あるあさ、こぎつねがそとで外へ出ようとして、
「おかあさん、めなにはいいたいた
とおおこえだ
と大きな声を出しました。
はは
母ぎつねはびっくりして、こぎつねのめみ
なはい
何も入っていません。

はは そとで
母ぎつねが外に出てみると、そとましろ
きのうよるゆきふ
昨日の夜、雪がたくさん降ったのです。
ゆきはじめてみこ
雪を初めて見た子ぎつねは、雪が、
ひさまひかりきらきらひか
お日様の光でキラキラ光っているのを見て、
めなにはい
「目に何かが入った！」と間違えたのでしょうか。



子ぎつねは外へ遊びに行きました。

やわらかい雪の上を走ると、雪がたくさん飛んで、
小さい虹が出ました。

後ろで「ぎーっ」という
大きい音がしました。

子ぎつねはびっくりして
飛び上がりました。
「何だろう？」と思って
後ろを見ると、
それは木の枝から落ちた雪でした。

「おかあさん、おててが冷たい。おててがちんちんする」
母ぎつねのところに帰った子ぎつねが言いました。
子ぎつねの手は雪で冷たくなって、赤くなっていました。
すごく痛そうです。
母ぎつねは、

「かわいそうに…。
町へ出て、この子に手ぶくろを
買ってあげよう」
と思いました。



よる
夜になりました。

きつねのおやこもりで、あるい
きつねの親子は森を出て、歩いて行きました。

ひろ
広いところに出ました。

とお
遠くを見た子ぎつねが、

「あっ、あんなひくいところにおほし
「あっ、あんな低いところにお星さまがいる！」と言いました。

「あれはほしじゃなくて、まちあ
「あれは星じゃなくて、町の明かりなんだよ」と

はは
母ぎつねは教えてあげました。

その時、ははきゅうおちだ
その時、母ぎつねは急に思い出しました。



むかしとも
昔、友だちのきつねと一緒に、

にんげんあひる
人間のうちのアヒルをとろうとして、

み
見つかってしまったことがありました。

「こらーっ！！」と

にんげんおおこえだ
人間はとても大きい声を出して、

お
追いかけてきました。

ははとき
母ぎつねは、その時の人間の顔と声が

すごく怖かったのです。

はは 母ぎつねは^{あし}足を止めて、
「^{おも}どうしよう・・・」と思いました。



でも、^こ子ぎつねの^{あか}赤くて
^{いた}痛そうな^て手を見ると、
やっぱり^て手ぶくろを^か買ってあげたい
と^{おも}いました。

「^{ちい}小さい^こ子ぎつねが^い行けば、
^{だいじょうぶ}大丈夫かもしれない・・・」と
^{はは}母ぎつねは^{かんが}考えました。



「^{まえ}お前、^て手を出して」

^{はは}母ぎつねは^いそう言うのと、
^こ子ぎつねの^{ひだり}左手を、
^{じぶん}自分の^て手でやさしく^{さわ}触りました。
すると、^こ子ぎつねの^て手が
かわいい^{にんげん}人間の^て手に^か変わりました。

「わ～、^{へん}変な^て手だね」

^こ子ぎつねは、その^て手を見て^い言いました。

「これは^{にんげん}人間の^て手よ」

^{はは}と^い母ぎつねが^い言いました。

「^{まち}町には^{にんげん}たくさん人間の^{うち}うちがあるから、

^えぼうしの^{みせ}絵がある^{さが}店を探^すんだよ。

^み見つけたら、その^{みせ}店の^{どあ}ドアを^て手で「^{とんとん}トントン」と^{たた}叩いて、

「^いこんばんは」って^い言いなさい。

すると、^{にんげん}人間が^{どあ}ドアを^{すこ}少し^あ開けるから、

その^{どあ}ドアの^{あいだ}間からこの^{にんげん}人間の^て手を出して、

「この^て手に^てちょうどいい^て手ぶくろを^いください」って^い言うんだよ、

わかったね」

^{はは}母ぎつねは^いそう言って、^こ子ぎつねに^{かね}お金を^{ふた}2つ^{わた}渡しました。

「絶対にきつねの手を出してはいけないよ」

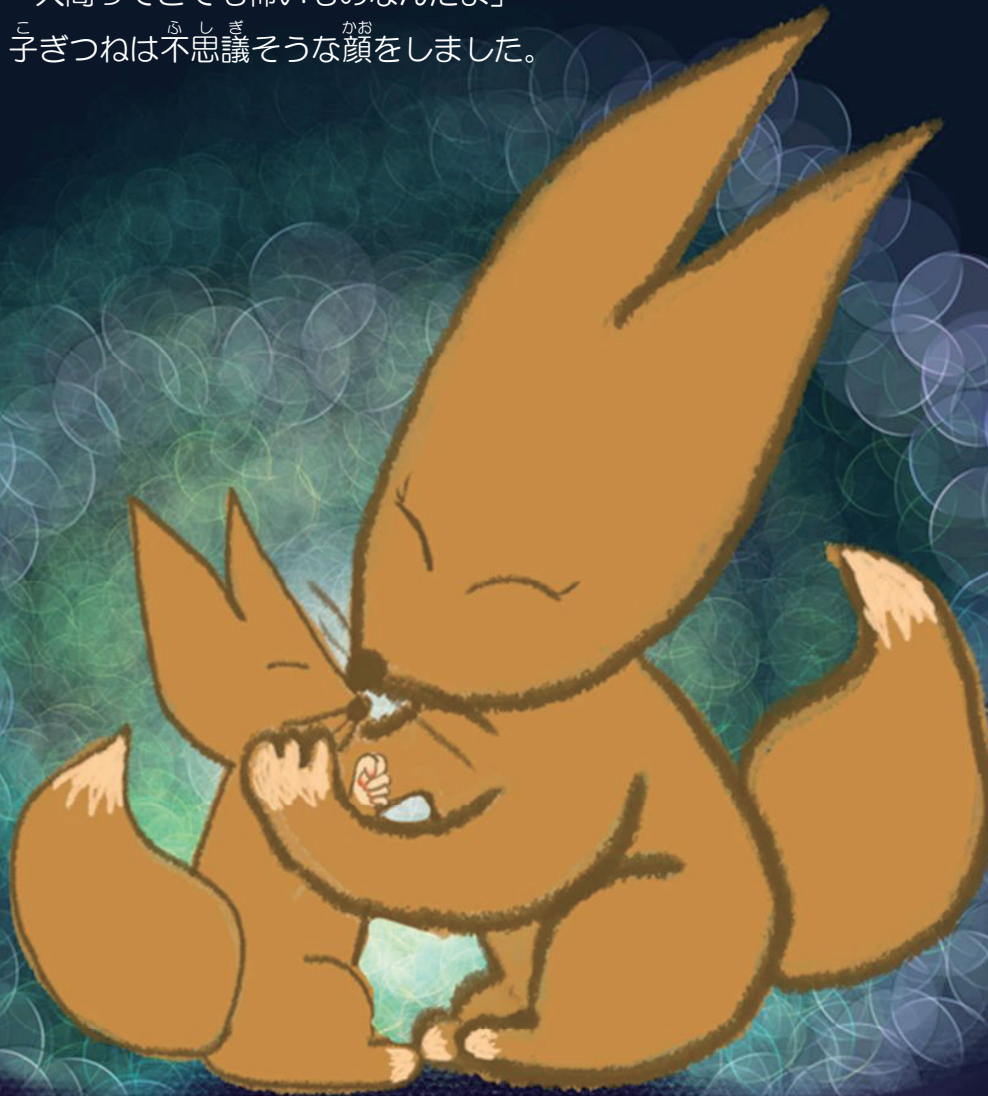
「どうして？」と子ぎつねは聞きました。

「人間は、きつねには手ぶくろを売ってくれないんだよ。

きつねを見たら、大きい声を出して、追いかけてくるんだよ。

人間ってとても怖いものなんだよ」

子ぎつねは不思議そうな顔をしました。



子ぎつねは町のほうへ歩いて行きました。

初めは1つだった明かりは、

2つになって、3つになって、

最後は10になりました。

町の明かりは、黄色や青や赤があって、

「お星さまと同じだな」

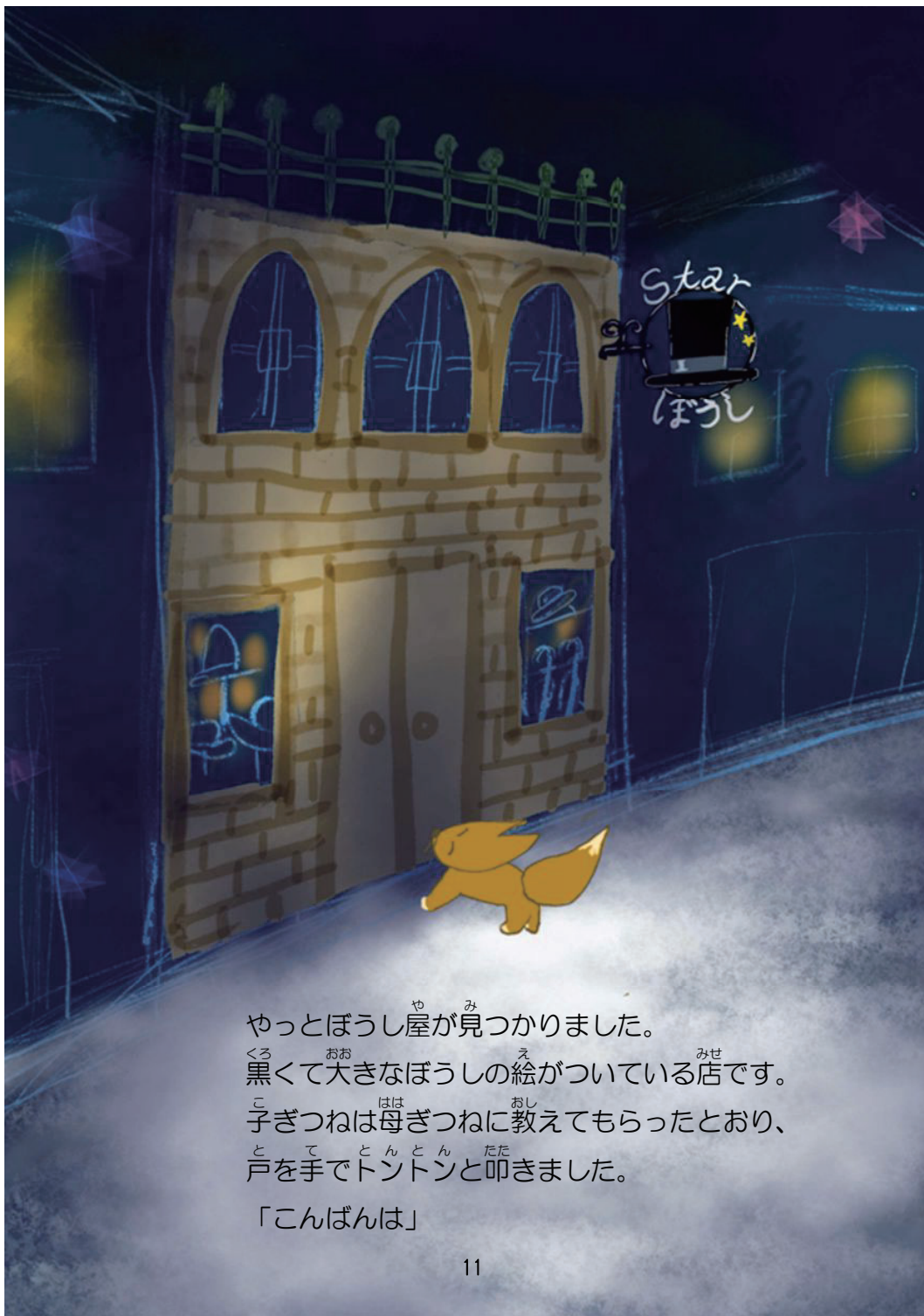
と子ぎつねは思いました。

もう家の戸はみんな閉まっていて

人は誰も歩いていません。

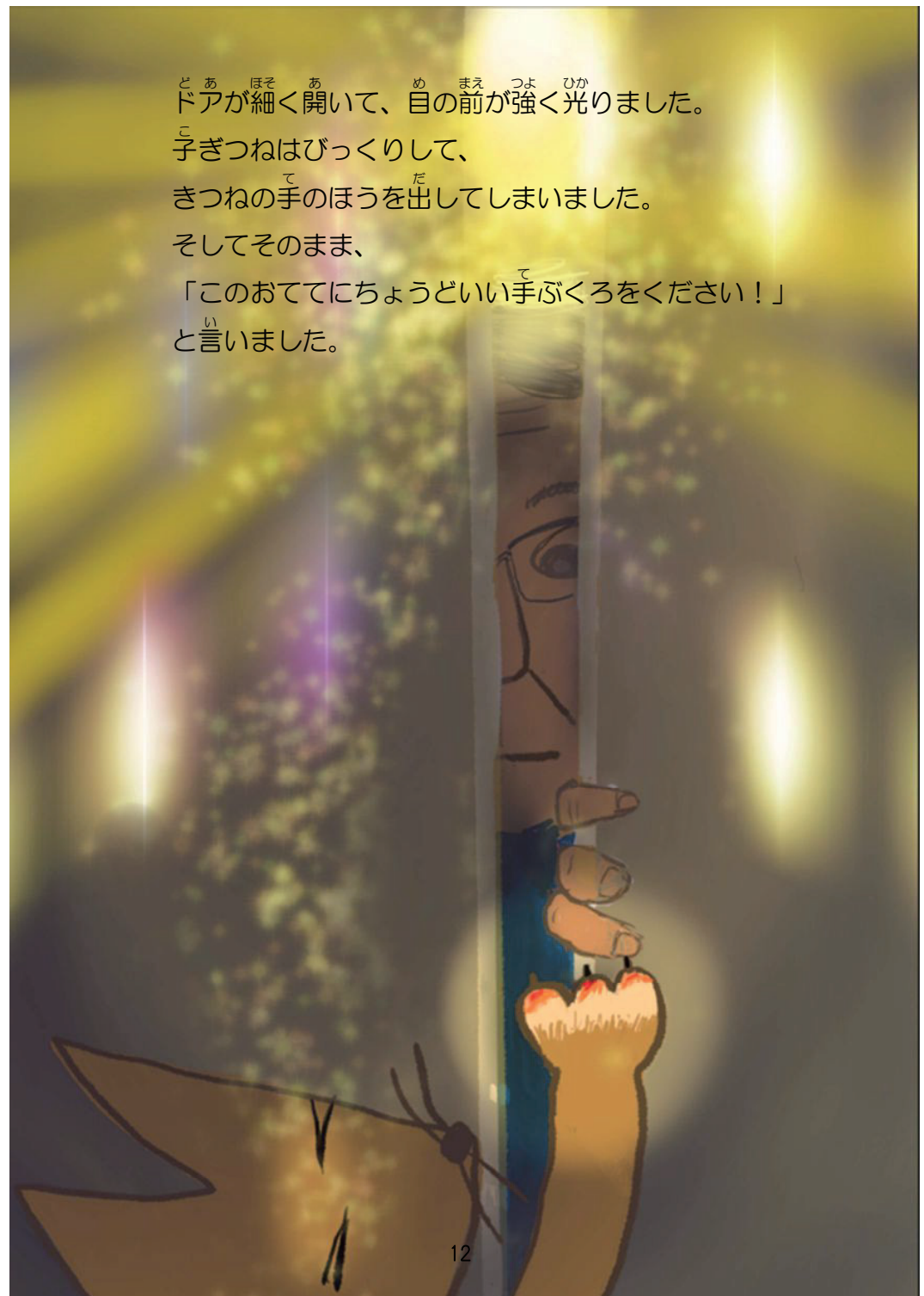
子ぎつねはぼうし屋を探しました。





やっとぼうし屋^{や み}が見つかりました。
黒^{くろ}くて大^{おお}きなぼうし^えの絵^えがついてい^みる店^{みせ}です。
子ぎつねは母^{はは}ぎつねに教^{おし}えてもら^{もら}ったとおり、
戸^とを手^てでトントン^{とん}と叩^{たた}きました。

「こんばんは」



どあ^{とあ}ほそ^{ほそ}あ^あめ^めまえ^{まえ}つよ^{つよ}ひか^{ひか}
ドア^こが細^こく開^あいて、目^めの前^{まえ}が強^{つよ}く光^{ひか}りました。
子ぎつねはびっく^こりして、
きつねの手^てのほう^{ほう}を出^だしてしま^{しま}いました。
そしてそのま^まま、
「このおて^ててにち^ちょうどい^いい手^てぶくろ^ろをく^ください！」
と言^いいました。

ぼうし屋は手を見て、
「おや、これはきつねだな」
とすぐわかりました。そして、
「本当にお金を持っているのかな」

と思ったので、

「先にお金をください」

と言いました。

子ぎつねは、今度は人間の手を出して、
お金を渡しました。

ぼうし屋はお金を長い間、
見ていました。

本当のお金のようです。


それからぼうし屋は、小さい子どもの手ぶくろを出して、
子ぎつねに渡しました。

子ぎつねは「ありがとう」と言いました。

「きつねの手を見せてしまったけど、大丈夫だった。

人間は全然怖くないな」

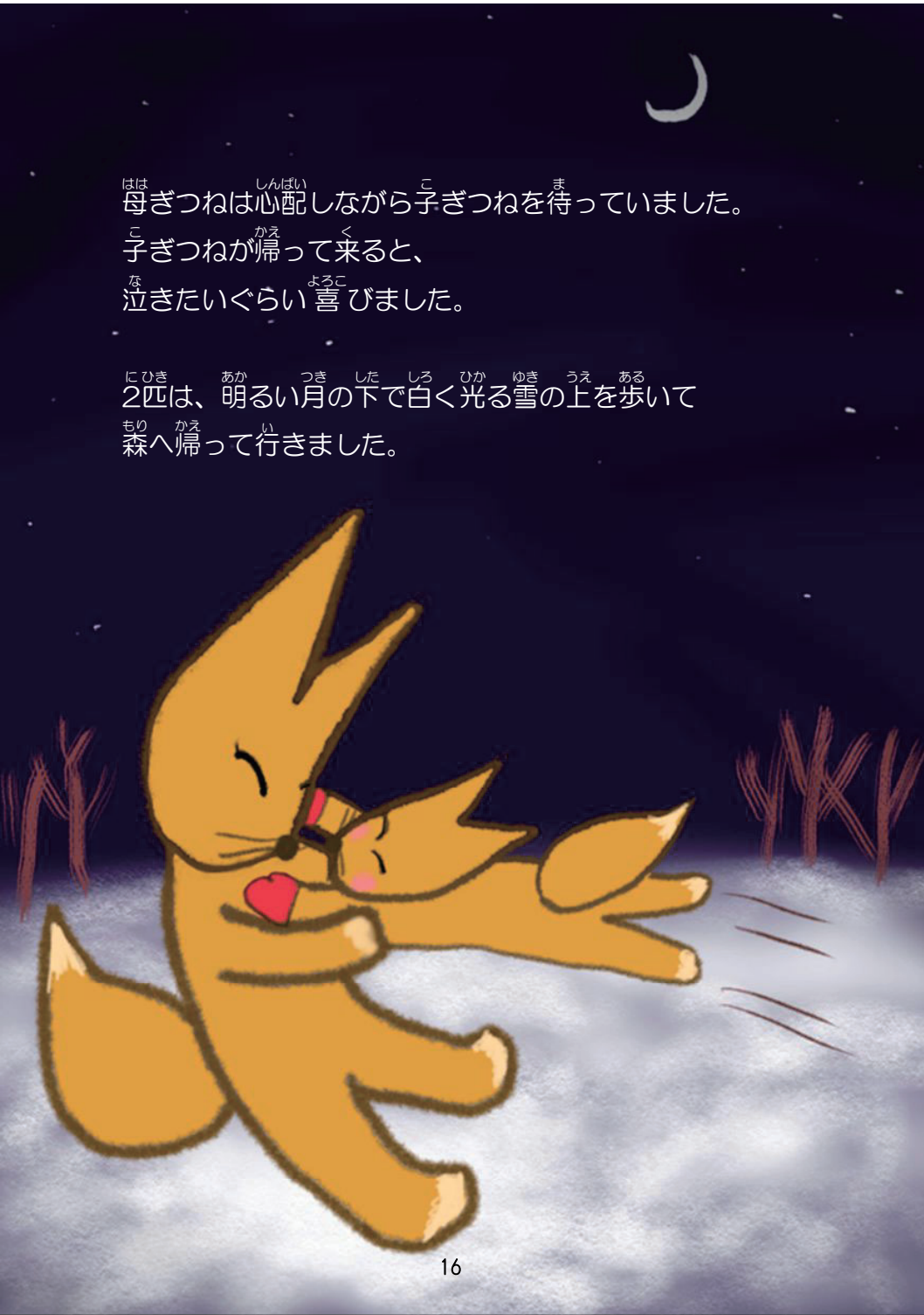
と子ぎつねは思いました。



かえ
帰りに
いえ まど した ある
ある家の窓の下を歩いていると、
こえ き
声が聞こえてきました。

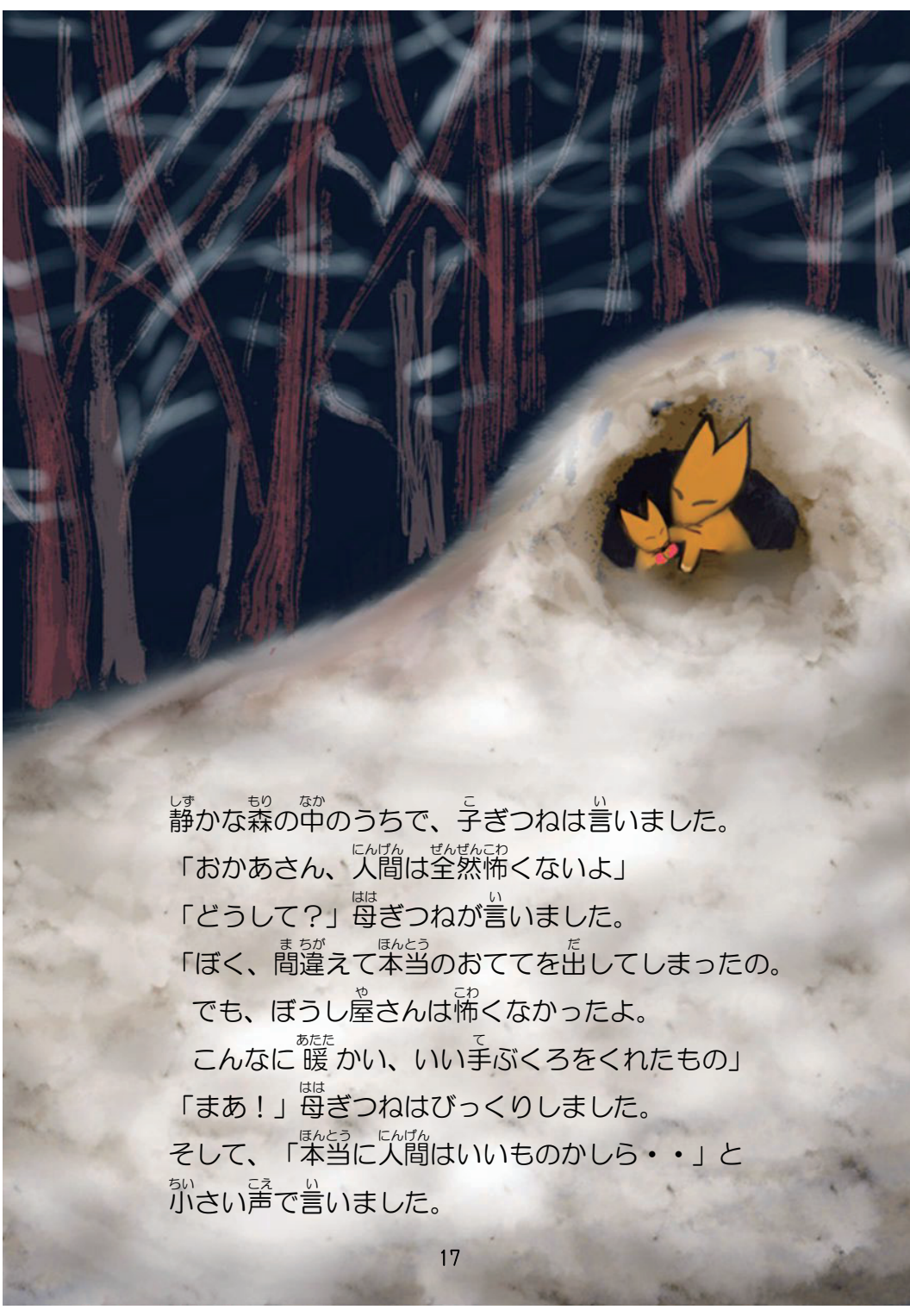
「ねむれ ねむれ ははのむねに
ねむれ ねむれ ははのてに・・・」

こ
子ぎつねは、これは人間のおかあさんの声だと思いました。
こ
子ぎつねが寝る時、子ぎつねのおかあさんも、
この声と同じように、すごくやさしい声で歌を歌ってくれるからです。
きゅう
急におかあさんにすごく会いたくなって、子ぎつねは走りました。



はは
母ぎつねは心配しながら子ぎつねを待っていました。
こ
子ぎつねが帰って来ると、
な
泣きたいぐらい喜びました。

にひき あか つき した しろ ひか ゆき うえ ある
2匹は、明るい月の下で白く光る雪の上を歩いて
もり かえ
森へ帰って行きました。

An illustration of a fox family (a mother and two children) huddled together in a small, cozy cave made of snow. The cave is set in a dark, snowy forest with tall, thin trees in the background. The scene is dimly lit, with light coming from the cave's entrance, creating a warm and intimate atmosphere.

しずかなもりなかのうちに、こぎつねはいいました。
「おかあさん、人間は全然怖くないよ」
「どうして？」母ぎつねはいいました。
「ぼく、間違えて本当のおててを出してしまったの。
でも、ぼうし屋さんは怖くなかったよ。
こんなに暖かい、いい手ぶくろをくれたもの」
「まあ！」母ぎつねはびっくりしました。
そして、「本当に人間はいいものかしら・・・」と
小さい声でいいました。

て か 手ぶくろを買いに

はっこうび
発行日

ねん がつ にち
： 2022年1月15日

げん さく
原作

にい み なんきち
： 新美 南吉

かん やく え
簡 約 ・ 絵

いけ だ
： 池田 あきつ

きょう りよく
協 力

： NPO 多言語多読



NPO多言語多読

tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>